

2. 都市が抱える課題の分析及び解決すべき課題の抽出

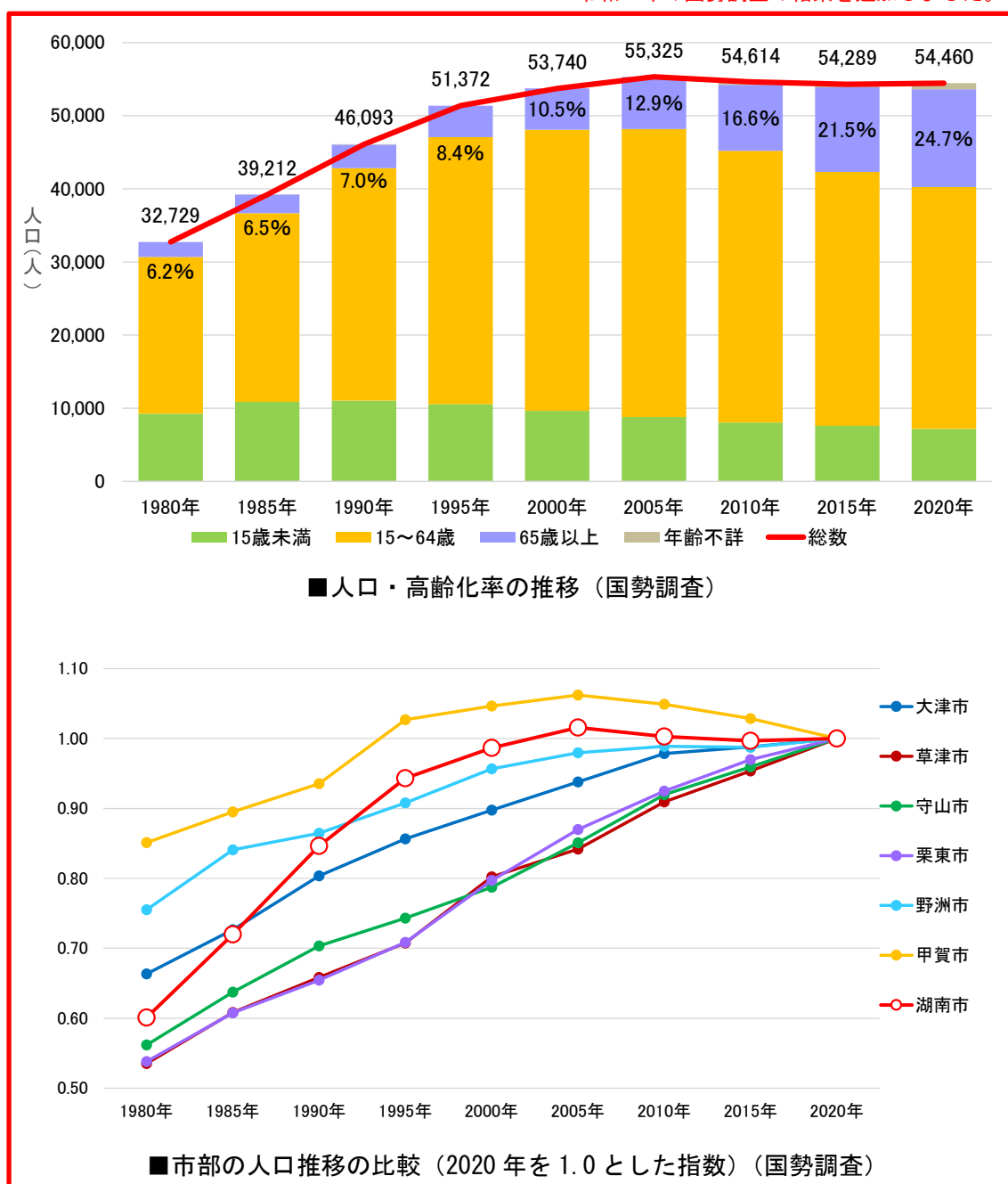
2-1 各種基礎的データの収集と都市の現状把握

(1) 人口

①市全体の人口・高齢化の動向

- ・増加傾向にあった人口は、2005年（平成17年）にピークを迎え、横ばいで推移しています。
- ・高齢化率（65歳以上人口比）は、一貫して増加傾向にあり、2000年（平成12年）からは10%を超えています。
- ・人口の変動は近隣都市と同様に大きく増加する傾向にありましたが、過去10～15年は緩やかになっています。

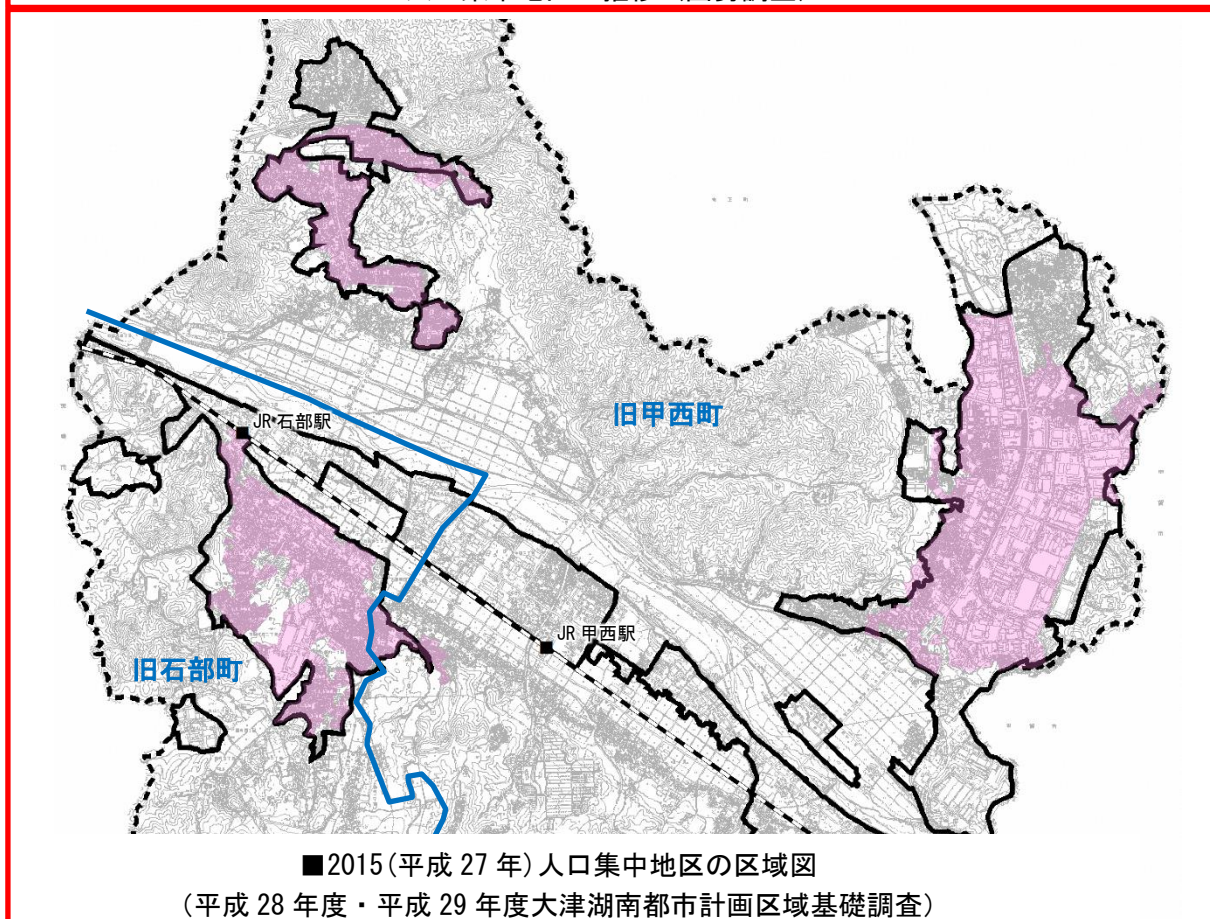
令和2年の国勢調査の結果を追加しました。



②人口集中地区の人口密度の動向

- ・人口集中地区（DID 区域）は、旧甲西町では 1990 年（平成 2 年）から、旧石部町では 2000 年（平成 12 年）から形成されています。
- ・人口集中地区の人口は、2000 年（平成 12 年）に旧石部町でも形成されて以来、大きく増加しており、人口密度は緩やかに高くなっています。
- ・なお、平成 27 年（2015 年）からは、1 箇所（8,157 人、1.13 km²）が新たに加わっています。

令和 2 年の国勢調査の結果を追加しました。

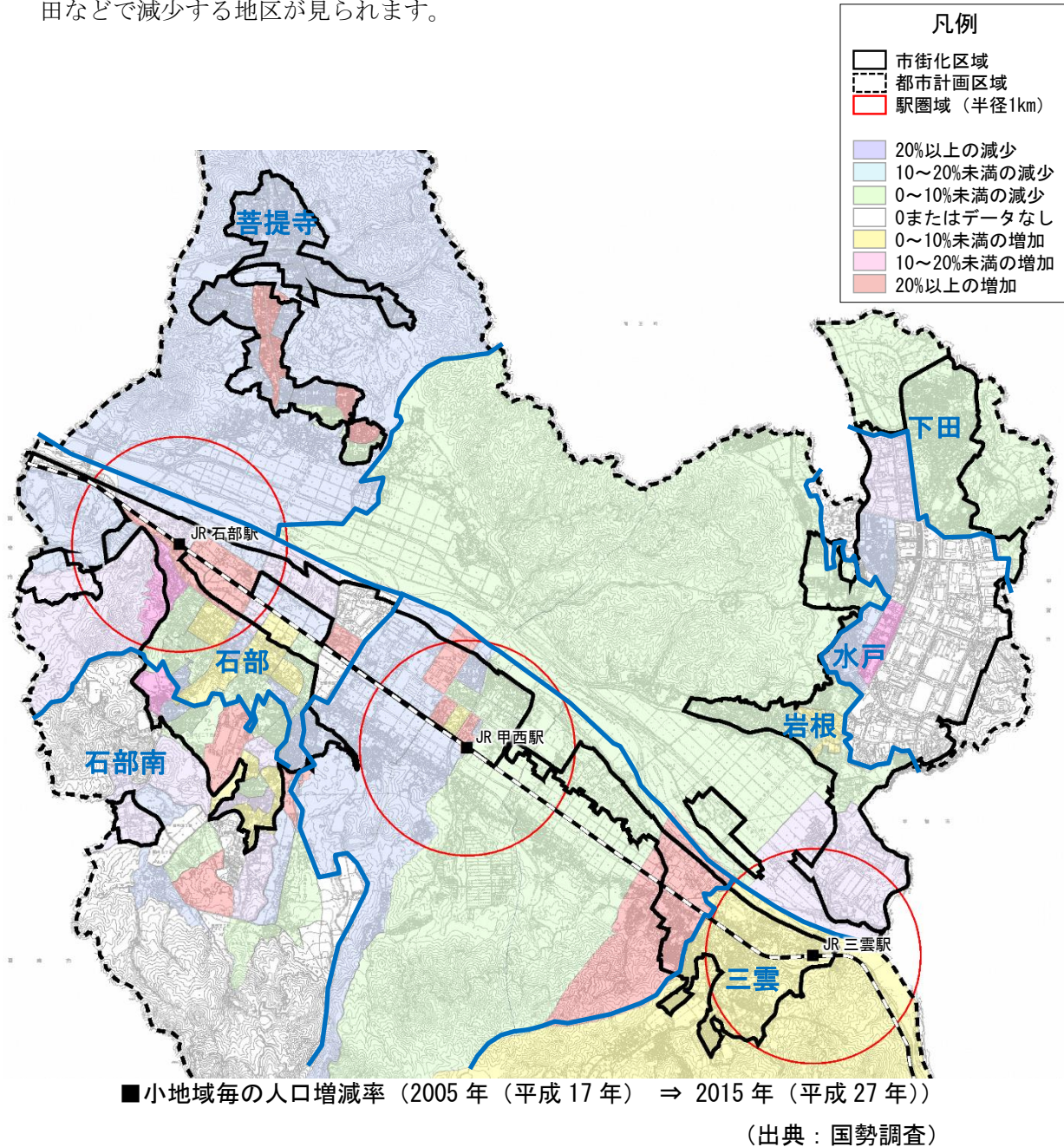


国勢調査（2010 年）の結果から、年次が新しい平成 28 年度・平成 29 年度大津湖南都市計画区域基礎調査の結果に変更しました。

2000年から2010年の増減率を2005年から2015年の増減率に変更しました。

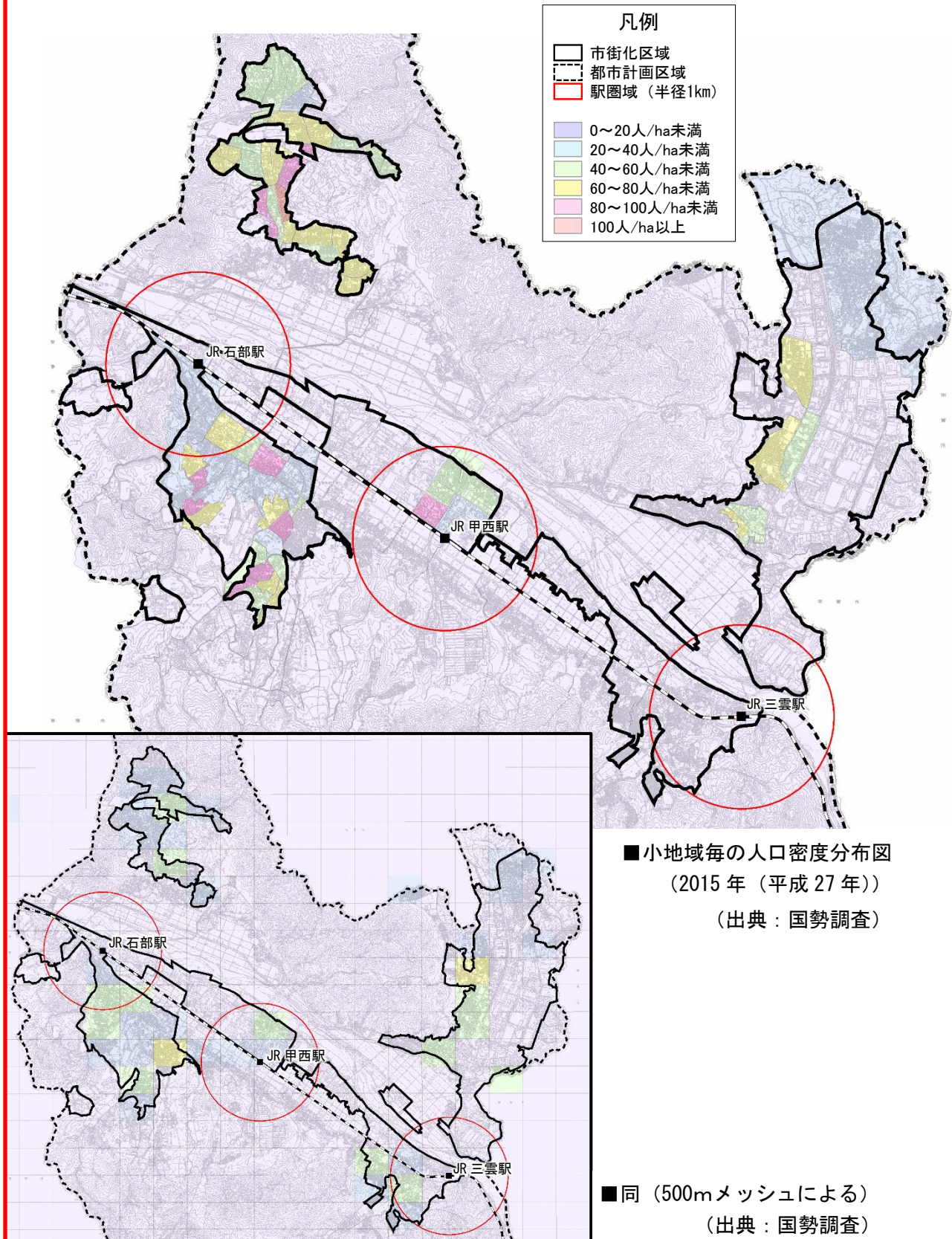
③小地域別の人口の動向

- ・市全体では、2010年（平成22年）から2020年（令和2年）にかけて154人の減少が見られます。
- ・市街地においては、石部や三雲、水戸の一部で増加地区が見られる一方、菩提寺、石部南、下田などで減少する地区が見られます。



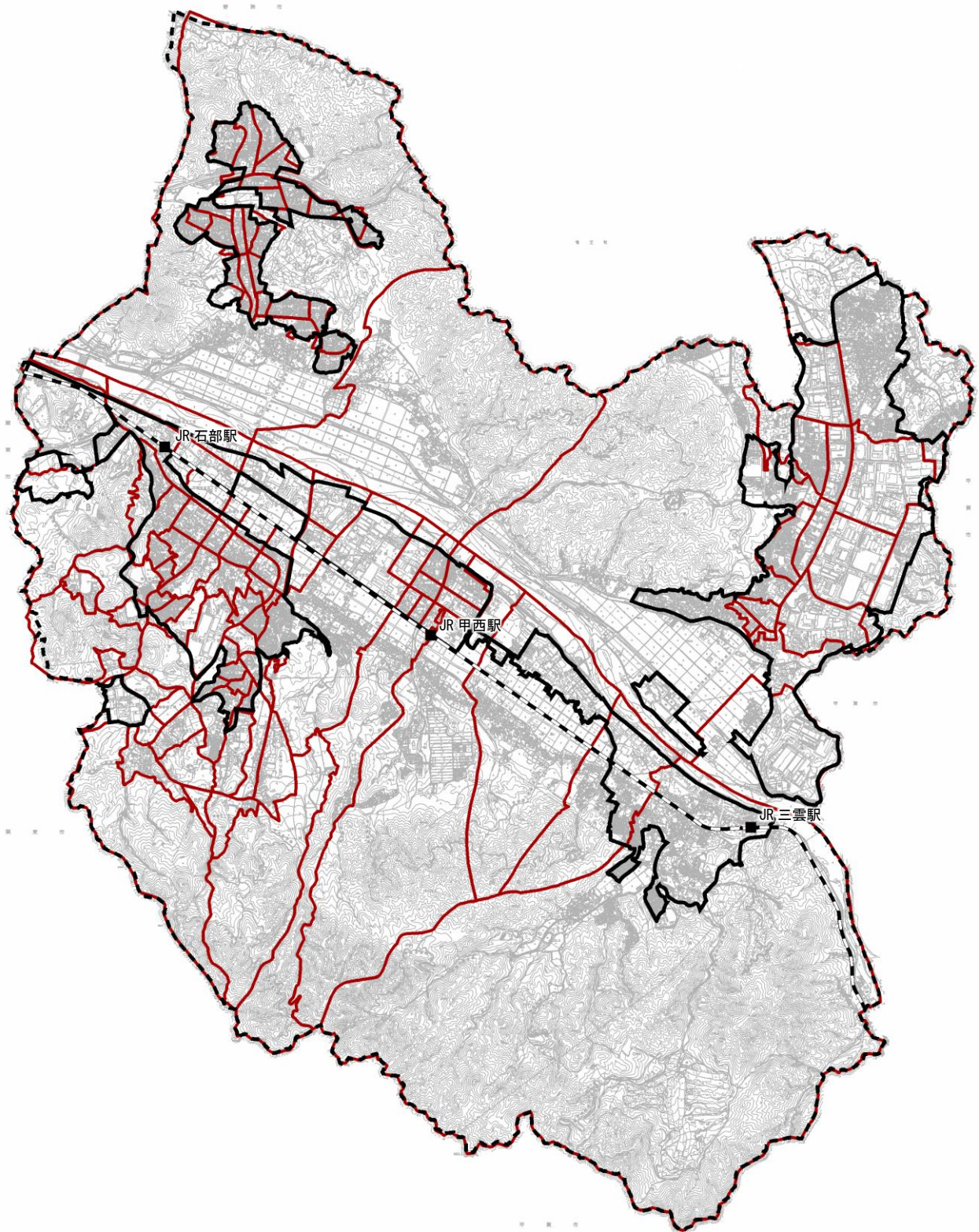
④小地域別の人口密度の状況

- ・市街地の人口密度は全体的に低く、20人/ha未満の地域が大半を占めています。
- ・人口密度が40人/haを超えるのは、石部、菩提寺、水戸の一部、甲西駅付近に見られる程度となっています。



【参考図 - 1 国勢調査における小地域区分】

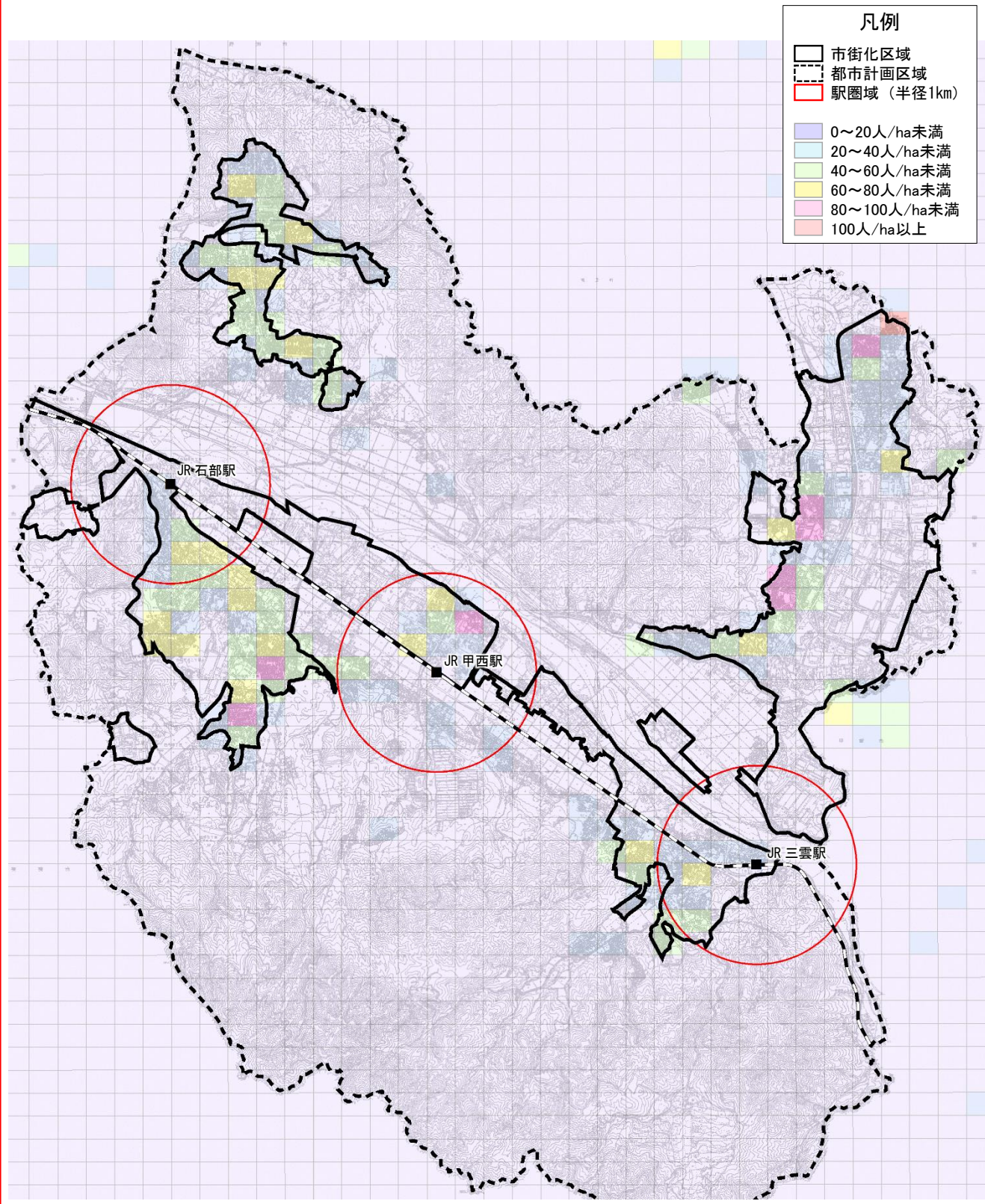
- ・小地域は、市区町村よりも小さい単位である町丁・字等の別に年齢5歳階級別人口や家族類型別世帯数等について集計している単位です。
- ・本計画においては、これらのデータを用いた図面は、この区分に基づき表記しています。



100m メッシュ区分を 250m メッシュ区分に変更し、2010 年の人口密度を 2015 年の人口密度に変更しました。

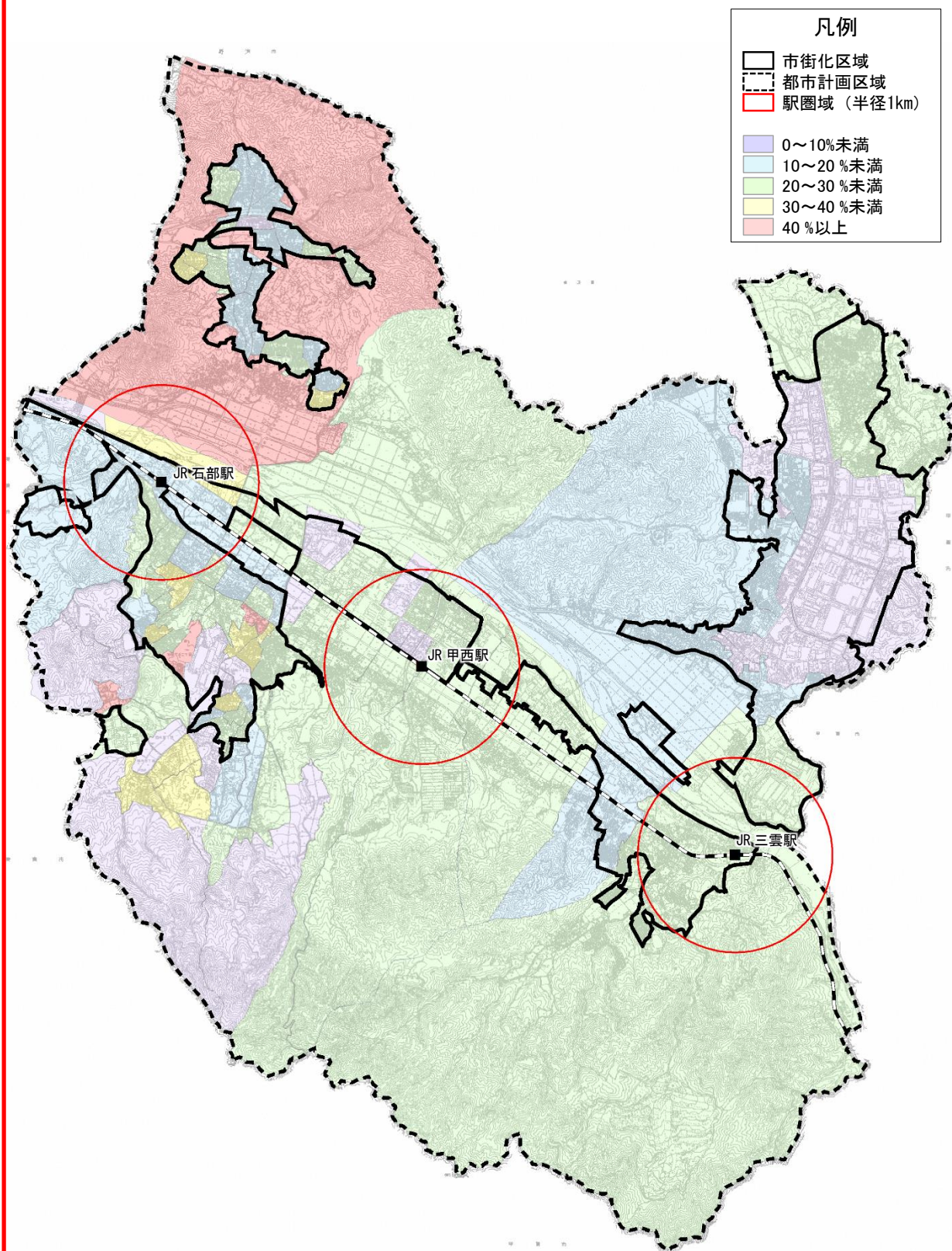
【参考図－2 250mメッシュ区分による人口密度分布図（2015 年（平成 27 年））】

- ・小地域区分では実際の人口集積状況が把握しにくいいため、総務省統計局より別途、より細かい単位の集計データ（人口のみ）を入手し、メッシュに変換したものです。
- ・人口・世帯数のみのデータ提供のため、人口密度分布図のみ作成しています。



⑤小地域別の高齢化の状況

- ・ 高齢化率は、菩提寺や石部で高い地区が見られます。

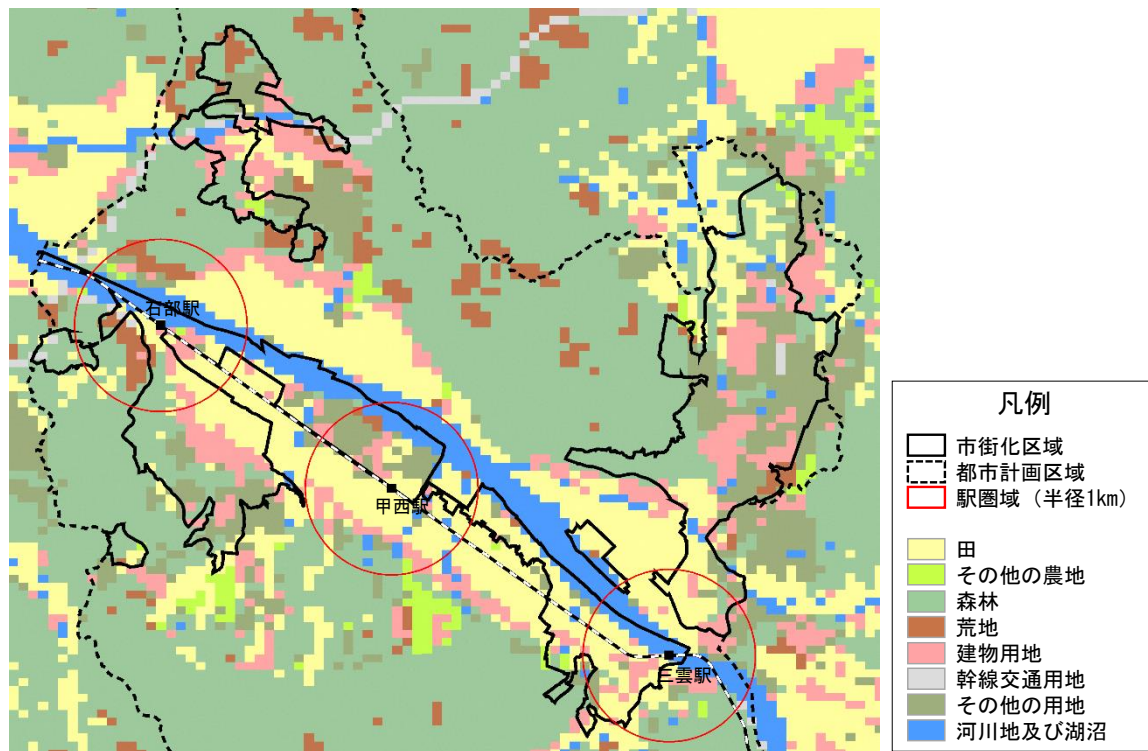


■小地域毎の高齢化率分布図（2015 年（平成 27 年））（出典：国勢調査）

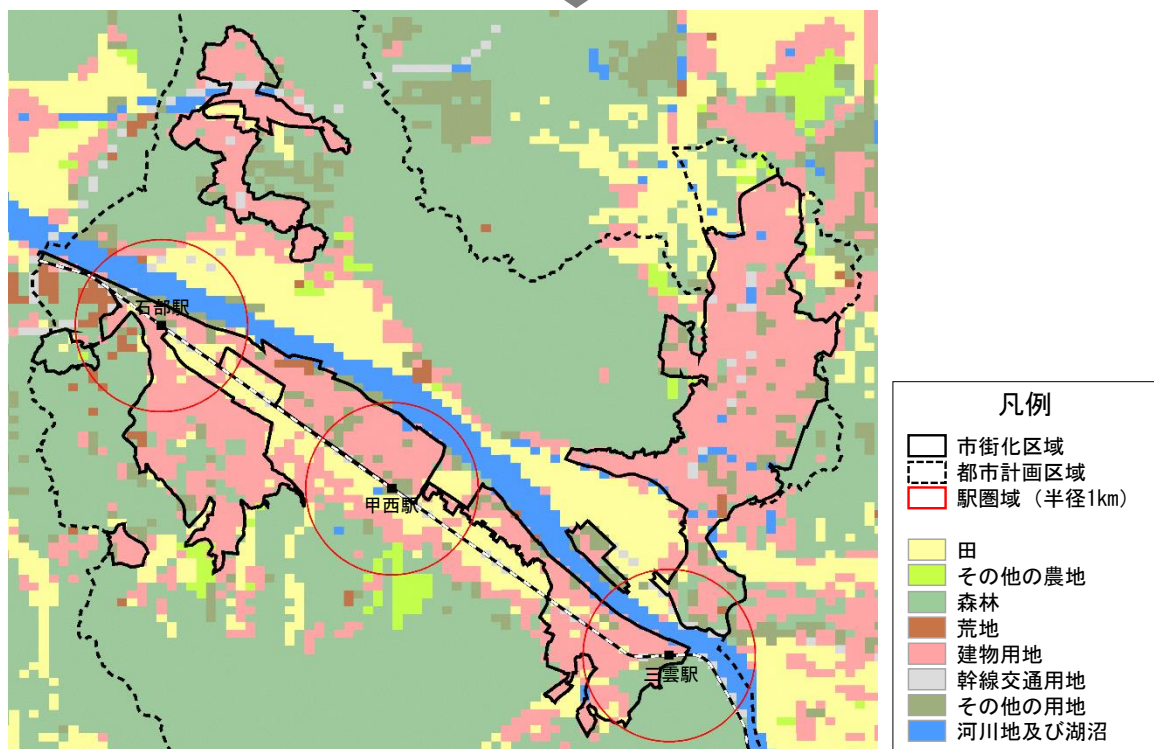
(2) 土地利用 1976 年から 2009 年の土地利用状況の変化を 1976 年から 2016 年の土地利用状況の変化に変更しました。

①土地利用の動向

- ・1976 年（昭和 51 年）～2016 年（平成 28 年）の 40 年間にかけて、市街化区域内の農地・山林の多くが建物用地に転用されており、市街地が拡大している様子がうかがえます。



■土地利用の状況（昭和 51 年（1976 年））（出典：国土数値情報）

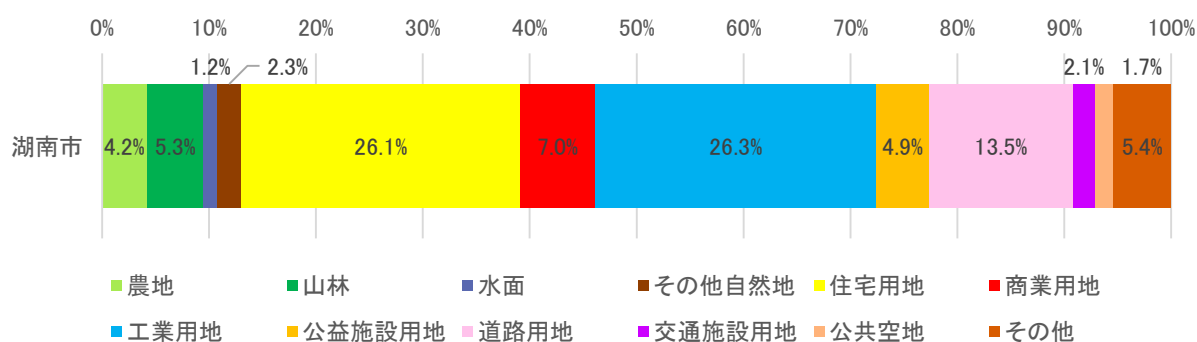


■土地利用の状況（平成 28 年（2016 年））（出典：国土数値情報）

②土地利用の現状

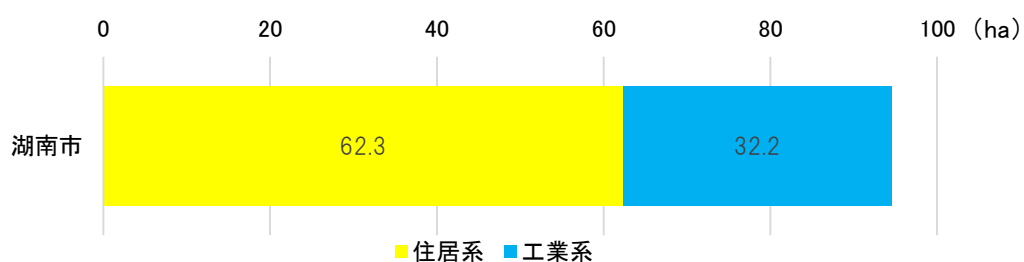
平成 28 年度・平成 29 年度大津湖南都市計画基礎調査の結果に変更しました。

- ・市街化区域の土地利用は、工業用地が 26.3%を占め、次いで住宅用地 26.1%の順となっており、住宅として工業都市の両面を持つ特性がうかがえます。
- ・市街化区域内の空閑地（農地、その他の自然地）は、住居系地域に 62.3ha、工業系地域に 32.2ha 存在し、住居系の方が工業系に比べ多く存在しています。なお、商業系地域には空閑地は存在していません。



■土地利用の現状

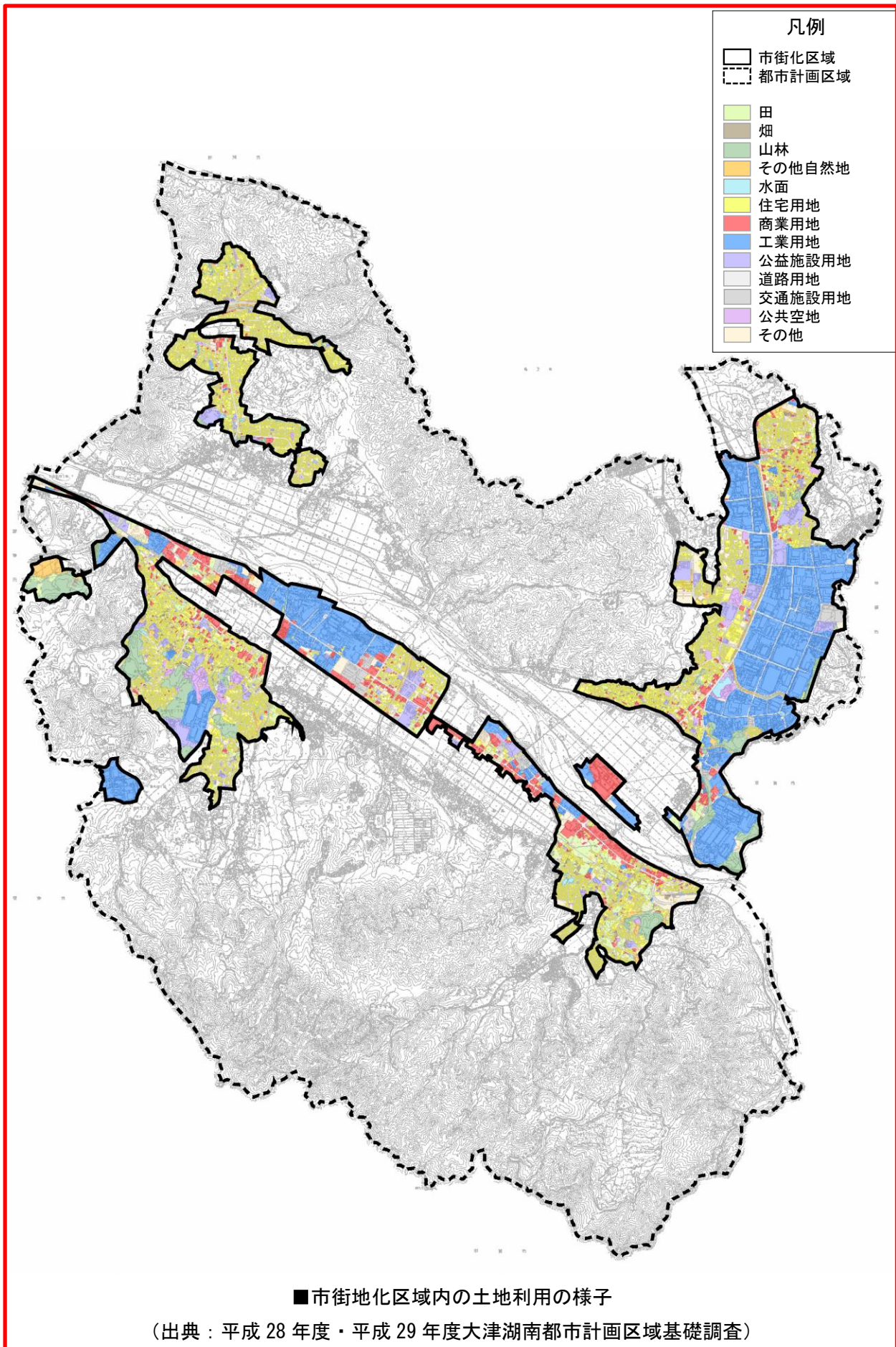
(出典：平成 28 年度・平成 29 年度大津湖南都市計画区域基礎調査)



■市街化区域内空閑地の用途地域種別毎の分布状況

(出典：平成 28 年度・平成 29 年度大津湖南都市計画区域基礎調査)

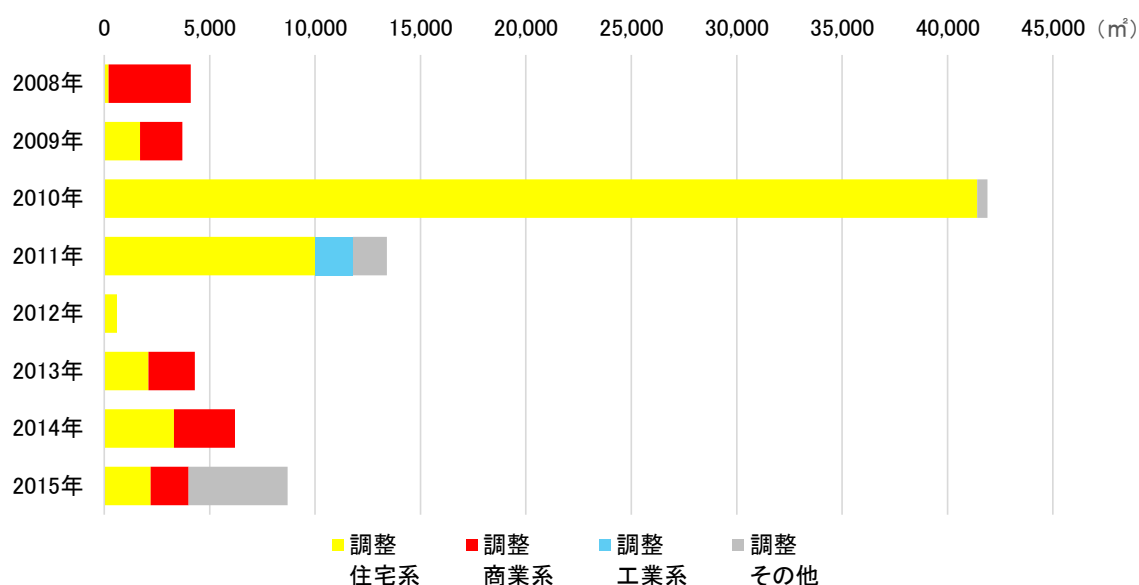
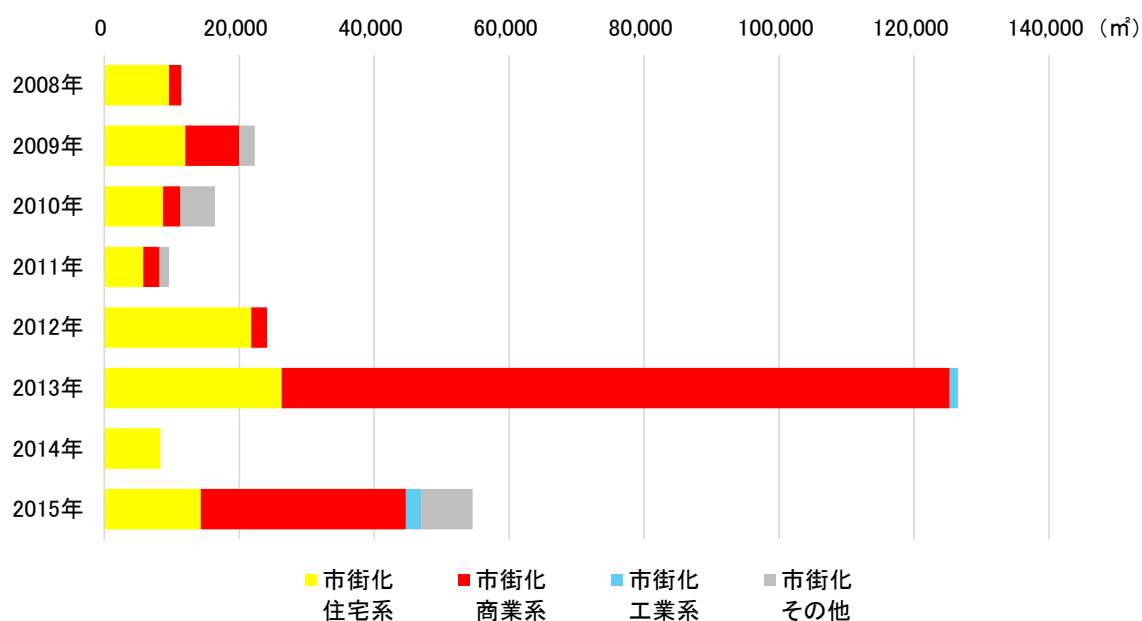
前頁に合わせて土地利用状況を変更しました。



③開発許可の動向

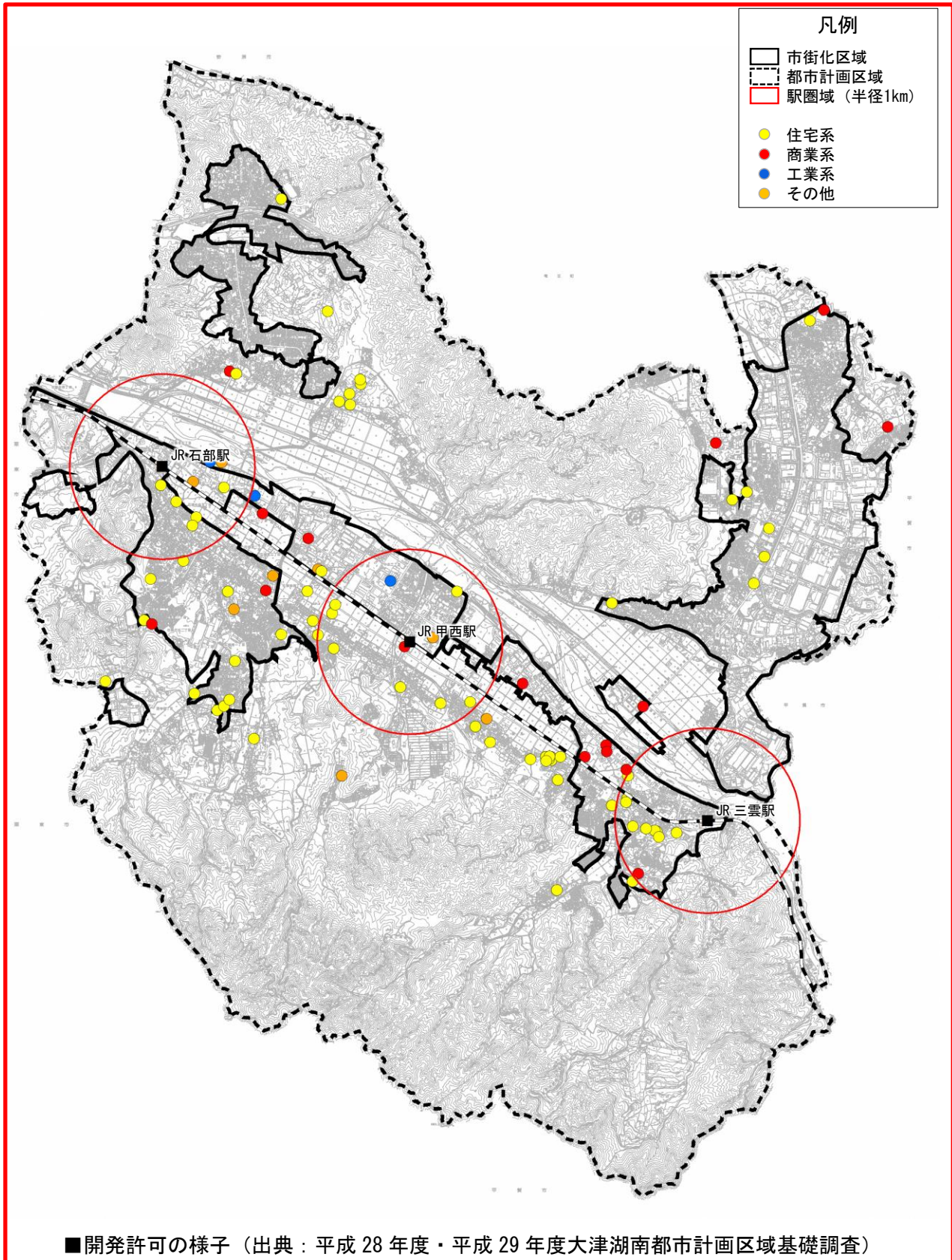
庁内資料を平成 28 年度・平成 29 年度大津湖南都市計画基礎調査の結果に変更しました。

- ・ 2008 年（平成 20 年）度から 2015 年（平成 27 年）度までの開発許可件数は 99 件あり、うち 53 件が市街化区域内となっています。
- ・ 住居系の開発が多くを占めますが、2013 年（平成 25 年）度には市街化区域で大規模な商業開発が行われています。また、2010 年（平成 22 年）度には、市街化調整区域においても大規模な住宅地開発が行われています。



■開発許可面積の推移（出典：平成 28 年度・平成 29 年度大津湖南都市計画区域基礎調査）

前頁に合わせて開発許可箇所を変更しました。

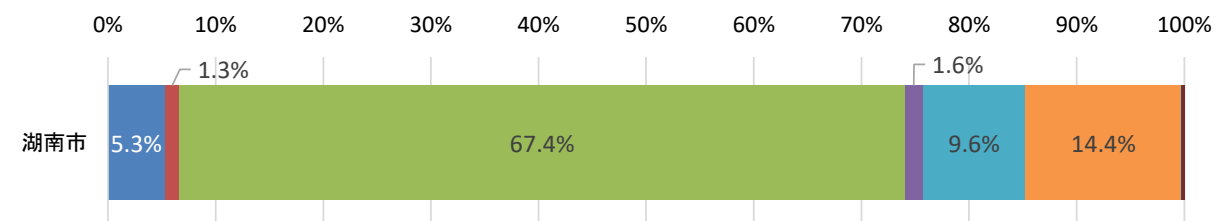


(3) 都市交通

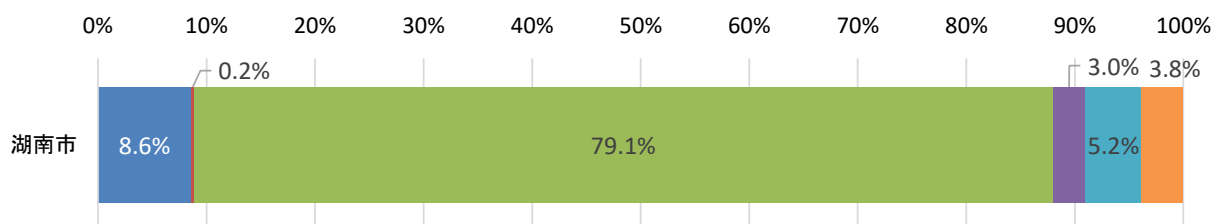
①市民の交通行動

- ・ 日常の市民の移動手段としては「自動車」が 67.4%と最も高く、鉄道やバスの利用はそれぞれ 5.3%、1.3%に留まっています。
- ・ 出勤では、市全体の鉄道利用の割合は 8.6%に留まる一方、自動車の利用割合が最も高く 79.1%となっています。
- ・ 登校では、鉄道やバスの利用割合が多目的より高く、それぞれ 21.2%、3.6%となっています。
- ・ 自由行動においては、鉄道やバスの利用割合はそれぞれ 2.4%、1.8%にまで低下しています。

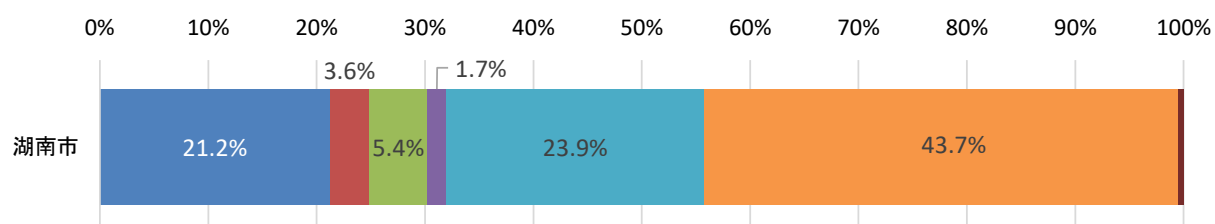
【全目的】 ■ 1. 鉄道 ■ 2. バス ■ 3. 自動車 ■ 4. 自動二輪・原付 ■ 5. 自転車 ■ 6. 徒歩 ■ 7. その他 ■ 8. 不明



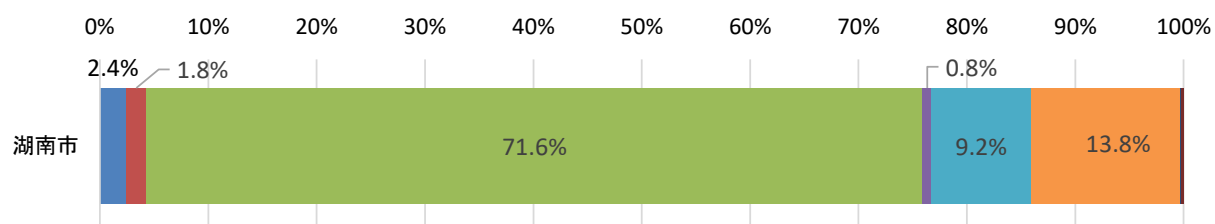
【出勤】 ■ 1. 鉄道 ■ 2. バス ■ 3. 自動車 ■ 4. 自動二輪・原付 ■ 5. 自転車 ■ 6. 徒歩 ■ 7. その他 ■ 8. 不明



【登校】 ■ 1. 鉄道 ■ 2. バス ■ 3. 自動車 ■ 4. 自動二輪・原付 ■ 5. 自転車 ■ 6. 徒歩 ■ 7. その他 ■ 8. 不明



【自由】 ■ 1. 鉄道 ■ 2. バス ■ 3. 自動車 ■ 4. 自動二輪・原付 ■ 5. 自転車 ■ 6. 徒歩 ■ 7. その他 ■ 8. 不明

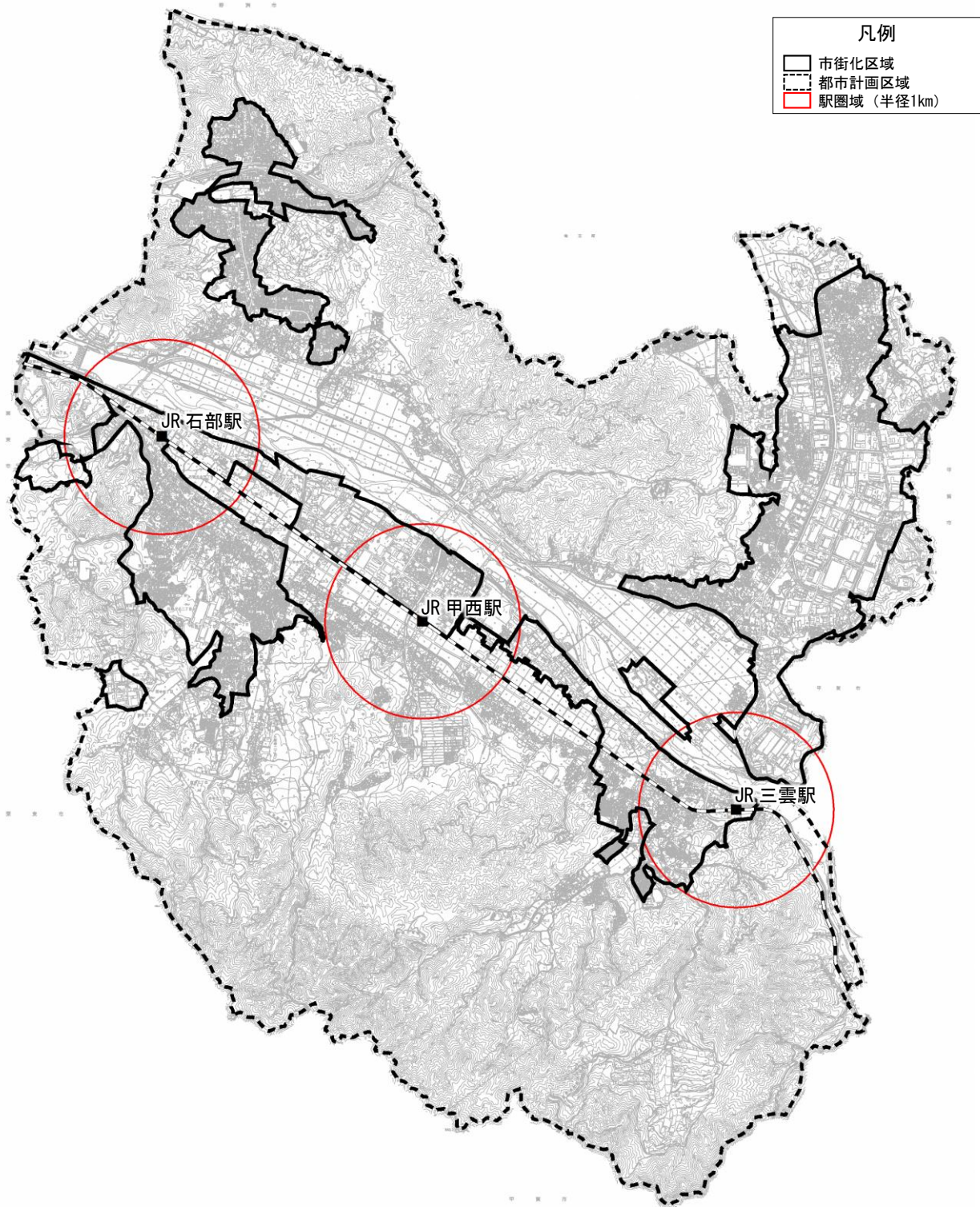


■ 平日の目的別、代表交通手段別発生量

(出典：平成 22 年 (2010 年) 第 5 回近畿圏パーソントリップ調査)

②鉄道

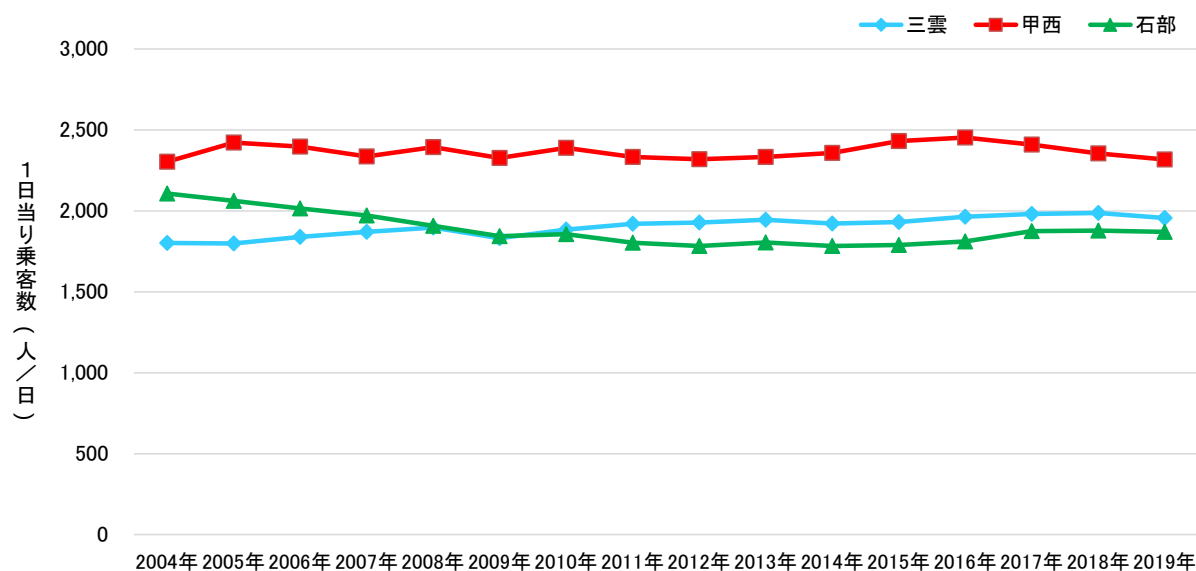
- ・市内には JR 草津線が運行しており、石部駅、甲西駅、三雲駅が開設されています。
- ・JR 草津線は単線のため、運行本数は通勤時の草津方面が最大 4 本/時間ある以外は、基本的に 2 本/時間となっています。
- ・石部駅、三雲駅は、明治 22 年（1889 年）、関西鉄道の創業路線である三雲駅～草津駅の間駅、終着駅として設置されていますが、甲西駅は昭和 56 年（1981 年）に新設開業されています。



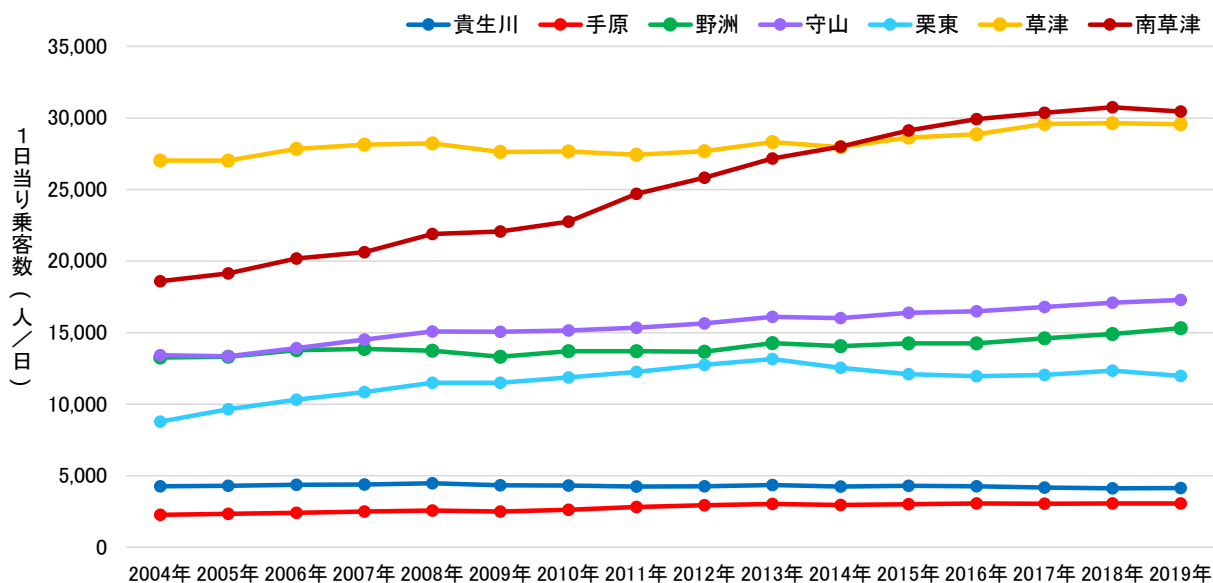
■鉄道と駅

- ・各駅の1日当たりの乗客数は、概ね横ばいの状況にあります。
- ・近隣都市の各駅の乗客数を比較すると、JR草津線の貴生川駅、手原駅はともに5,000人/日以下で横ばいの状況にありますが、JR琵琶湖線（東海道本線）の各駅は10,000人/日以上乗客数があり、増加傾向にあります。

2013年から2019年までの乗降客数の推移を追加しました。



■乗客数の推移（出典：湖南市統計資料）



■近隣都市の乗客数の推移（出典：滋賀県統計年鑑）

③バス

- ・市では、生活交通路線を確保するためコミュニティバス（めぐるくん）の運行を行っております。
ここ近年、利用者が減少しており、市民ニーズや地域づくりの動向に基づくサービス改善による新たなコミュニティバスの利用促進が必要です。
- ・持続的で利便性の高い交通ネットワークの構築とともに健全な運営について検討が必要です。

現在配布されているパンフレットに変更しました。

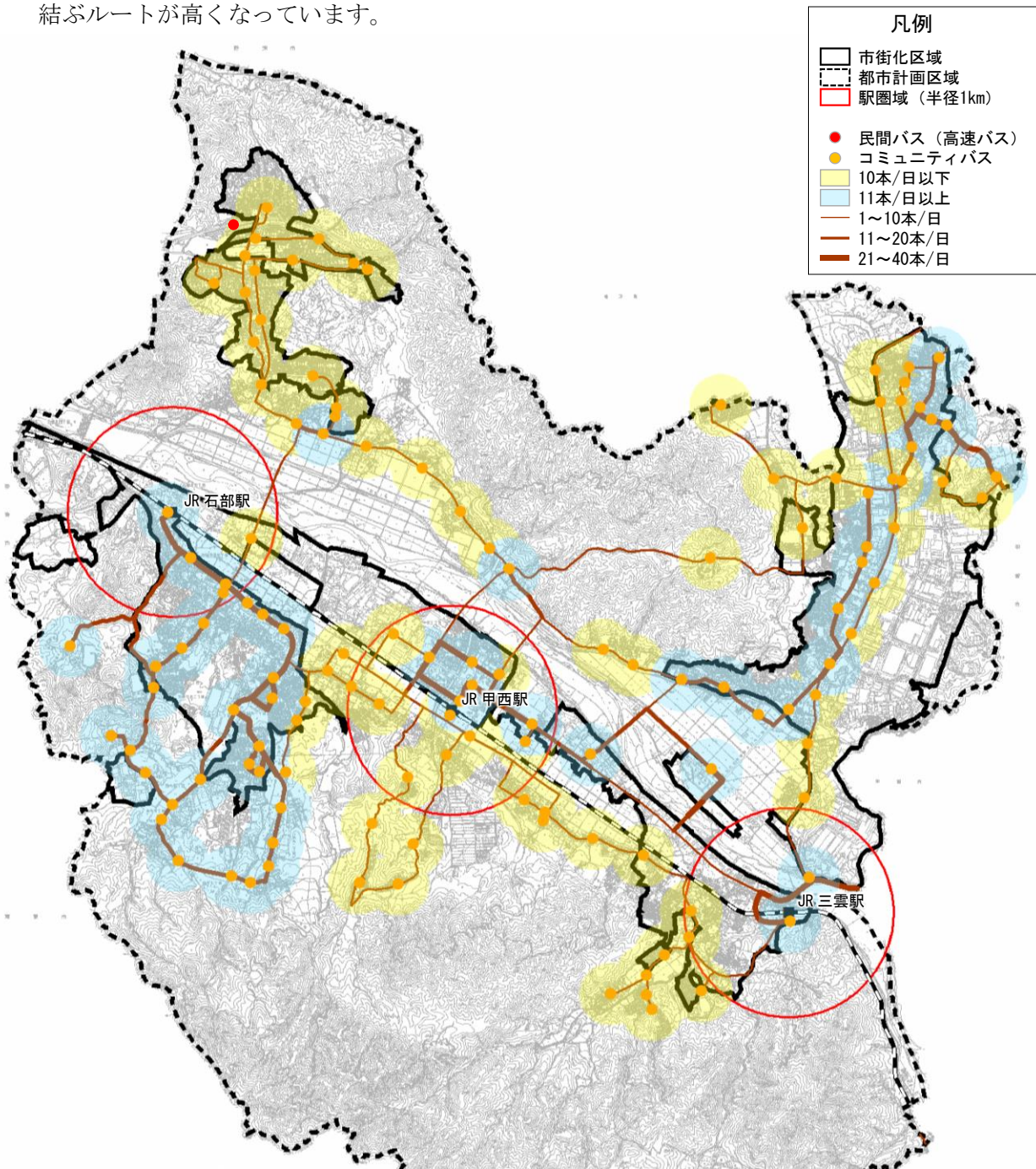


■湖南市コミュニティバス運行系統図

④公共交通の利便性

平成 28 年度・平成 29 年度大津湖南都市計画基礎調査の結果に変更しました。

- ・石部、三雲駅周辺は、地形的な制約もあり、駅からやや離れた位置での宅地開発が進んだため、住宅市街地の中心と駅の位置には隔たりが生じています。
- ・甲西駅周辺は、甲西駅の開設と並行して市街地開発が進められたため、住宅市街地は駅勢圏（半径 1km）に含まれます。
- ・バスについては、市街地内は工業地を除きほぼ全域がコミュニティバスのサービス圏（半径 300 m）に含まれますが、運行密度は石部が最も高く、次いで下田・水戸・岩根と三雲駅・甲西駅を結ぶルートが高くなっています。



※鉄道駅のサービス圏：徒歩で利用できる半径 1km の範囲（高齢者の場合は 800m とする場合がある）

バスのサービス圏：徒歩で利用できる半径 300m の範囲

⑤道路

平成 22 年交通センサスから平成 27 年交通センサスに変更しました。

- ・幹線道路（国道・県道）における交通量は、交通量総数（市内 16 地点での交通量の合計）は 2010 年（平成 22 年）から 2015 年（平成 27 年）にかけて増加しています。
- ・16 地点のうち、昼間 12 時間交通量では 3 ヶ所で減少しています。
- ・全調査箇所 16 地点のうち、混雑度が 1.0 を超える箇所は 10 地点となっています。

■幹線道路における交通量の推移（資料：平成 27 年（2015 年）交通センサス）

道路種別	路線名		交通量観測地点地名	2010年(平成22年)		2015年(平成27年)		倍増率(2015/2010)		混雑度 (H27年)
	路線	路線名		昼間 12時間	24時間 (台)	昼間 12時間	24時間 (台)	昼間 12時間	24時間 (台)	
一般国道	1	一般国道1号	石部大橋交差点西	16,860	25,445	16,917	24,760	1.00	1.03	1.48
一般国道	1	一般国道1号	湖南省朝国	14,320	19,098	15,510	21,006	0.92	0.91	1.19
一般国道	1	一般国道1号	中郡橋北交差点東	11,301	15,565	13,257	18,277	0.85	0.85	1.65
一般国道	1	一般国道1号	中郡橋北交差点西			14,976	20,415	0.75	0.76	2.06
一般国道	3	一般国道477号		11,471	14,798	11,694	15,553	0.98	0.95	1.41
一般国道	3	一般国道477号		8,826	11,386	9,076	11,980	0.97	0.95	1.62
主要地方道	4	草津伊賀線	湖南省三雲	8,849	11,415	8,097	10,688	1.09	1.07	0.81
主要地方道	13	彦根八日市甲西線	湖南省岩根	10,292	13,791	10,494	13,852	0.98	1.00	0.88
主要地方道	22	竜王石部線	湖南省菩堤寺	7,933	10,710	8,758	11,473	0.91	0.93	1.59
主要地方道	22	竜王石部線	湖南省菩堤寺	9,152	11,844	11,358	14,549	0.81	0.81	1.48
主要地方道	22	竜王石部線	湖南省菩堤寺	10,674	13,876	7,621	10,060	1.40	1.38	0.90
主要地方道	27	野洲甲西線		12,446	16,180	12,481	16,725	1.00	0.97	1.86
主要地方道	27	野洲甲西線	湖南省正福寺	4,581	5,955	5,567	7,237	0.82	0.82	0.93
一般県道	113	石部草津線	湖南省丸山	8,246	10,518	7,641	9,745	1.08	1.08	1.36
一般県道	118	石部停車場線		7,901	10,587	8,172	10,705	0.97	0.99	0.80
一般県道	119	長寿寺本堂線	湖南省石部中央一丁目	7,453	9,987	7,980	10,454	0.93	0.96	0.87
合計				150,305	201,155	169,599	227,479	0.97	0.97	

平成 22 年交通センサスから平成 27 年交通センサスに変更しました。

